

高齢社会をよくする女性の会・大阪



事務局：〒540-0038 大阪市中央区内淡路町1-3-11 シティコープ402号
E-mail wabasosaka2024@gmail.com SORA気付
URL https://wabas-osaka.org/



第125号

2025年8月9日

2024年4月、住所・メールアドレスが変わりました

2025 年度活動テーマ



人生 100 年時代 ～「ケア」を中心とした社会をつくろう～

代表 植本真砂子

介護の社会化や尊厳ある介護・自己決定が権利として「保障」されるとされた介護保険制度は今や危機的状況にあり、医療・介護の担い手確保は待ったなしです。

また、女性に多い非正規労働者、単身・高齢世帯の一層の増加など、「所得格差の拡大」「ケア格差の拡大」も顕著になっています。ケアする人・ケアを受ける人の人権が尊重され、社会的なケアが行き届いた「自分らしく地域で生が全うできる社会」を作り上げるという私たちの営みは一層大事です。

当会では、これまでセミナーの開催、調査活動に基づく政策提言や国会・各政党への働きかけ、情報発信と他団体との連携などを行ってきました。引き続き、問題意識を共有化し、解決に向けての発信、会員同士の絆を深め安心して暮らせる社会をめざすことは当会の役割です。

一方、会員が設立時の約三分の一となるなかで、会を持続可能なものにし、次世代に明るい未来をつなぐため、組織・財政運営改革に着手します。

当会の代表を7年半務めていただいた竹中恵美子さんが7月1日永眠されました。心より感謝し、ご冥福をお祈りします。(8・9頁参照)

目 次

2025 年度活動テーマ：人生 100 年時代～「ケア」を中心とした社会をつくろう～	1
2025 年度定時総会報告	2～3
長寿期ひとり暮らし、ふたり暮らしの生活リスク～100 まで生きてしまう時代の「受援力」～	4～5
映画「オレンジランプ」上映会 & 3.18 国際女性デー集会報告	6
院内集会 & NPO 高齢社会をよくする女性の会総会報告	7
竹中恵美子さんを悼んで	8～9
会員シリーズ こんなことしてま～す！	10
研究会だより（介護問題研究会、シニアライフ・サポート倶楽部）	11
運営委員会だより	11
インフォメーション	12

2025 年度定時総会報告

5 月 31 日（土）11:00～12:00

ドーンセンター 4F 大会議室①

今年度の定時総会は、司会進行役の林誠子さんの開会の言葉に続き、植本眞砂子代表の挨拶で始まりました。総会の参加者は 31 名、委任状 35 通。会員数（3/31 現在 114 名）の 3 分の 1 以上に達し、会則 18 条 1 項の規定による総会の成立を司会者が宣言。司会者一任で、議長に中西智子さん、書記に足立須香さんが選出され審議に入りました。



❖ 左から 林 誠子さん、植本眞砂子さん、中西智子さん、足立須香さん、森屋裕子さん

【第 1 号議案】 2024 年度活動報告…………… 森屋裕子

「ケアを中心にした社会に向けた社会政策とは」をテーマに総会記念講演会、マラソンシンポジウムの共催、「認知症」セミナーの開催、映画（「オレンジランプ」）の上映会を実施、講師派遣、他団体との連携も行いました。

【第 2 号議案】 2024 年度決算報告…………… 蔵谷香代子

監査報告…………… 津山好子



蔵谷香代子さん

津山好子さん

【第 3 号議案】 2025 年度活動テーマ（1 頁を参照）…………… 植本眞砂子

【第 4 号議案】 2025 年度活動計画…………… 植本眞砂子

1. 総会（年 1 回）、役員会（必要に応じて随時）、運営委員会（月 1 回、WEB 委員会随時）
2. 講演、シンポジウム、セミナー等

◇ 5 月 31 日（土）総会当日の午後 2 時～

講演会：「長寿期ひとり暮らし、ふたり暮らしの生活リスク」

講師：春日キスヨさん（元松山大学大学院人文学部教授 社会学者

高齢社会をよくする女性の会・広島代表）

◇ 11 月「成年後見制度」のセミナー

◇ 9 月、2 月に会員交流・意見交換会など

3. 研究会・勉強会（介護問題研究会、シニアライフ・サポート倶楽部）
4. 広報活動：会報（年 2 回程度発行）、リーフレットの活用、ホームページ
運営、メールマガジンの発行（月 1 回程度）の予定
5. その他：講師派遣、他団体との連携活動など介護保険・介護労働・事業者
などとのネットワークを生かした活動



森 詩恵さん

【第 5 号議案】 会則改正 組織図改正 森 詩恵

1. 3 部会を 2 部会へ再編（総務部会・企画部会・広報部会 ⇒ 総務部会・広報部会）（第 4 条の 1）
2. 入会金の廃止と会費引き下げ（個人年会費 4,000 円 ⇒ 3,000 円）（第 7 条）
3. 賛助会費の引き下げ（第 7 条）

（一口 5,000 円 ⇒ 一口 1,000 円）

4. 役員数の変更（第 12 条）

（副代表 2 名以内 ⇒ 2 名、

各部代表 2 名以内 ⇒ 各部代表 1 名）

5. 役員の選任方法の見直し（第 13 条）

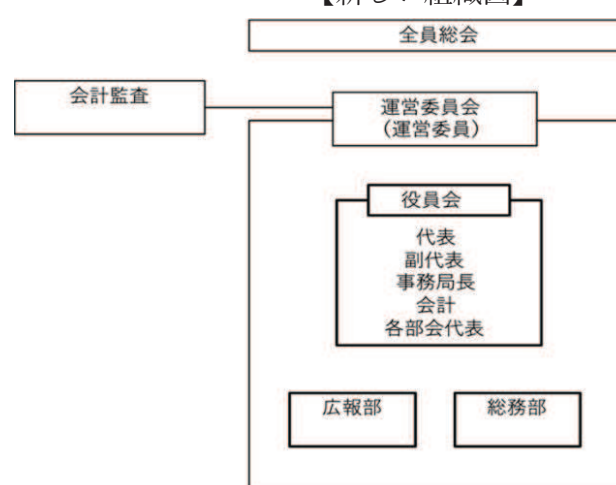
（運営委員会の推薦 ⇒ 運営委員会の中から推薦

総会において選任 ⇒ 総会において承認）

6. 事務局長の職務の明確化（第 14 条）

（全ての事務を統括する ⇒ すべての事務・運営を統括する）

【新しい組織図】



【第 6 号議案】 2025 年度予算 蔵谷香代子



* 3 人の方から第 3 号議案、第 4 号議案、
第 5 号議案、第 6 号議案について質問があり、
それに植本代表、蔵谷会計が回答。

以上、すべての議案は満場一致で可決されました。



第 1 回 会員交流会 【9 月 13 日（土）10：00～11：45】

5 月の総会で年 2 回のセミナーを、交流会として開催することになりました。顔見知りでも、意外と知らないことって多いもの。住んでいる町のこと、健康のこと、今の関心ごとや生きがいなど、自由に語り合ってみませんか？ 新たな出会いや気づき、学びが生まれるかもしれません。定員 20 名です。ぜひご参加ください！（詳しくは同封のチラシをご覧ください）

2025 年度 第 1 回セミナー

長寿期ひと暮らし、 ふたい暮らしの生活リスク ～100まで 生きてしまう時代の「受援力」～

と き：2025 年 5 月 31 日（土） ところ：ドーンセンター4F 大会議室①

講 師：春日キスヨさん 元松山大学大学院人文学部教授 社会学者
「高齢社会をよくなる女性の会・広島」代表

春日キスヨさんの講演会は、人生 100 年時代という現代の現実深く向き合うものであった。特に印象に残ったのは、「長寿期におけるひとり暮らし、二人暮らしの生活リスク」が、いまや社会全体の課題であるという指摘である。

たとえ介護予防に熱心に取り組んでも、年を重ねるにつれて身体的・認知的な機能が衰えるのは避けがたい。健康寿命は延びつつあるが、病気や要介護状態で過ごす「不健康寿命」も同時に延伸している。その現実はどう対応するかが、長寿社会における重要なテーマとなっている。

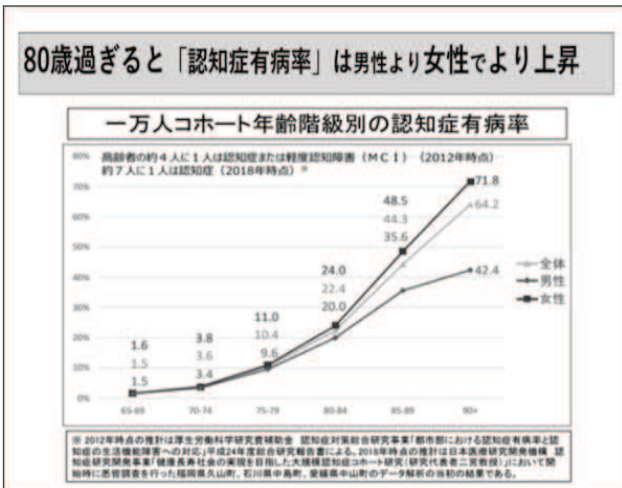
特に、80 歳を超えると認知症の有病率が急激に高まる傾向があり、これは男性よりも女性において顕著であるという事実、衝撃を受けた。もしも独身や高齢夫婦の両方が認知症を発症し、子どもや親族と疎遠だった場合、生活の継続すら困難になりかねない。



これは決して一部の人だけに起こる問題ではなく、誰もが直面しうる課題である。

こうしたリスクに対応するために、春日さんは「キーパーソン」の存在の重要性を強調する。キーパーソンとは、高齢者に寄り添い、必要な支援を把握・判断し、代行や代弁を行いながら、その人らしい暮らしを支える人のことである。春日さんが挙げたキーパーソンの役割は以下の 6 点である。

- ①相手の命綱を握る責任と義務意識を持つこと（「見ようとしのない人には、見えているものも見えない」）。
- ②相手の健康な時の生活をよく観察し、異常を感知できるようになること。
- ③状況に応じ相手に必要な対処法、支援内容が何かを判断する。
- ④病院・介護支援機関等の情報収集・選定し、依頼・交渉し、つなぐ。



⑤何をどうするか本人の意向に添い、代弁し、判断・調整する。

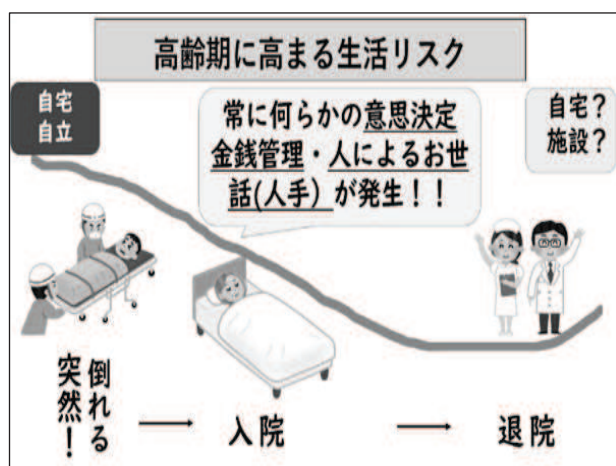
⑥暮らしを支え・維持するため必要な生活支援等を担う役割。

これらの役割は、単なる「家族の手助け」ではなく、暮らし全体を見守る「生活支援の中核的存在」であることを示している。

そして春日さんは、制度やサービスの不十分さ以上に、「それらにアクセスできない関係性の弱さ」が、長寿社会における不安の本質であると指摘する。

実際、介護や福祉の制度は整備されつつあるが、必要なときにそれを利用するには、情報を知っている人、教えてくれる人、手続きを代行してくれる人との“つながり”が不可欠だ。支援の制度があっても、それを使えなければ意味がない。助けを求めにくい環境や、相談できる相手の不在が、かえって孤立を深めてしまう。

だからこそ、高齢期を迎える私たちにとっては、日常的な人間関係や地域との関係性をどう築いておくかが、制度以上に重要になってくる。



また、春日さんは「二人暮らしのリスク」にも目を向ける。一般的には「ひとりよりも二人の方が安心」と思われがちだが、高齢の配偶者同士がともに体調を崩した場合や、どちらか一方に介護が集中する場合、その負担は非常に大きくなる。特に、高齢夫婦間での“相互依存”が強まると外部とのつながりが希薄になり、結果的に地域社会から孤立してしまう危険もある。家庭の中で完結するのではなく、日頃から地域や友人、行政とつな



がりを持つことが、自立した暮らしを支える鍵となる。

春日さんは、100歳まで生きることが特別ではない時代に、「どこで、誰と、どのように生きたいか」を考えることの大切さを繰り返し説いていた。それは、単なる理想論ではなく、現実的な生存戦略である。自分の意思を周囲に伝えておくこと、自分らしい生き方を支えてくれるつながりを日頃から築いておくことが、長寿社会を安心して生きるための基盤となる。

このようなつながりの構築や、寄り添う姿勢において、女性の果たす役割は非常に大きい。女性はこれまで、家庭や地域、介護現場の中で「支える力」を培ってきた。その細やかな配慮や感情に寄り添う力、他者となぐ力は、これからの高齢社会における“授援力”の中核をなすといえる。



支える側にも、支えられる側にも、関係性とつながりが求められる時代。「一人で頑張る」介護ではなく、「誰かとつながって共に支え合う」暮らしへ。春日キスヨさんの講演を通じて、私は長寿社会の未来に向けて、自分に何ができるかを深く考えさせられた。
(馬 文博)

第 4 回例会（映画を観る会）報告

「オレンジ・ランプ」～39 歳、パパが認知症！？ どうする、私！！～

2025 年 2 月 15 日（土）夜、医療・介護・保健従事者が元気になる会/生野区介護家族ゆとの会/高齢社会をよくする女性の会・大阪の三団体共催で開催した。

当日の参加者は 102 名、告知で知った一般の地域の方もたくさん来場され、この映画の内容についての関心の高さを感じた。この映画は 39 歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断されてから 10 年以上経ち、現在も普段通りの生活を送られている丹野智文さん他、実在する認知症ご本人やご家族の方々の実話を元に「日本認知症本人ワーキンググループ」「認知症の人と家族の会」などの関連団体の全面協力を得て完成。劇場公開後は、クラウドファンディングの呼びかけで各地市民上映会も活発に行われ昨年度末で 1000 回を越えた。

ご本人、ご家族、そして社会が認知症とどう向き合うべきかのヒントがいっぱいあり、とても役立つ内容になっている。何より、当事者や家族の思いが十分に伝わってくる。参加者はみんな自分事として考えたことだろう。認知症を悲劇や避けるべきものとして描くのではなく、誰もがなりうる時代であることを前提に、“認知症になっても安心して暮らせる社会づくり”に繋がる作品を目指したいというねらいは十分に伝わってきた。（足立須香）

※小説「オレンジ・ランプ」（幻冬舎文庫）もお薦め！

.....

国際女性年大阪連絡会 3.18 国際女性デー集会

ドーンセンター5階 特別会議室



今こそ叫ぼう！！

性暴力を許さない社会を！“被害者”を孤立させないために

2025 年の今年、国際女性年から 50 年、女性差別撤廃条約の日本批准から 40 年、雇用機会均等法成立から 40 年、敗戦から 80 年という節目の年です。

しかし、多くの性犯罪に対して「同意があった」として、性暴力はなかった」と女性たちの尊厳が踏みにじられる事件が後を絶ちません。セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖の健康・権利）が不十分であり、性暴力・性犯罪の推定被害者の検挙率が 2.28% であるなど、未だ被害者が声を上げにくい社会です。これまで 365 日 24 時間、被害者に寄り添い、被害者の心と身体のケア、二次被害を防ぐための活動を進めていたワンストップセンター大阪 SACHCO が人材難・財政難で存続の危機となっていました。存続を求める署名や陳情活動の結果、府内に被害者の「支援ネットワーク」が整備されることになりました。これらの経過と今後の取り組みについて、中心的に取り組んでこられた弁護士雪田樹理さん（特定非営利活動法人暴力救援センター・大阪 SACHCO 理事）の講演を聞き、今後とも支えあっていくことと、性暴力被害者支援のための根拠法の整備を進めることを共に確認しました。

昨年 10 月の女性差別撤廃委員会からの勧告の中で、2 年以内に改善を求められている 4 つの項目の内 2 つが「人工妊娠中絶の配偶者同意要件の削除」「緊急避妊を含む安価な近代的避妊法への十分なアクセスを提供」です。緊急な取り組みが求められます。（植本眞砂子）



※尋常ならざる事態：2024 年 12 月の予算委員会での訪問介護の実態への石破首相の答弁



集会には自民党が初めて参加。アンケートに回答がなかった政党の席も用意された

「ケア社会をつくる会」(NPO 高齢社会をよくする女性の会と認定 NPO ウイメンズアクションネットワークを中心に介護事業者・介護従事者・介護家族などが参加)は 5 月 28 日(水) 14 時～16 時、衆議院第一議員会館で院内集会を開き、参議院議員選挙を前に各政党へ送った介護政策に関する公開質問(11 項目)の結果を公表した。与野党ともに介護保険制度崩壊への危機感を持っていることが明らかになった。昨年の衆議院選挙前に送った同様の公開質問に比べて、自民党・公明党の回答は、国会勢力を反映して、一定の変化があった。

集会では、まず、各党の回答に対する各専門職

(ケアマネ、ヘルパー、24 時間

訪問介護事業所、施設従事者)からコメントや問題提起などが行われた。その後各政党(自民党、公明党、立憲民主党、共産党、れいわ新選組、社民党、国民民主党)からの発言があり、参加者の総意で声明を確認した。(維新の会、参政党、保守党は欠席)

詳細は「ケア社会をつくる会」のホームページ <https://caresociety.net/> をご覧ください。

参議院選挙後の結果を受けて、ケア社会をつくる会の「円卓会議」(7 月 23 日)が YouTube 配信されている。

NPO 法人高齢社会をよくする女性の会 定期総会報告

「NPO 法人高齢社会をよくする女性の会」の 2025 年度(第 21 回)定期総会が 6 月 14 日(土) 日比谷図書文化館コンベンションホールで開催された。(会員総数 485 人、グループ会員 32 の内、個人の出席 55 人・委任状 209 人、グループ会員参加 4・委任状 17)

会員の減少で会報の発行を年 6 回から 4 回にすることなどの事業計画が承認された。

第 2 部の記念講演は、公益財団法人 U ビジョン研究所理事長本間郁子さんが「人生 100 年時代を生ききる人生設計」と題して、「老いる」と「長生き」することで、自分の身に起きることを示され、身体・経済状態の変化に合わせた生き方で人生を楽しむ、病気や老いにつき合う・受け入れること。楽しみを変える・楽しみを続ける～生き方は自分で決めること。責任を持つことの大事さと障害を持った時の生き方、自分で判断できなくなった時に備える＝自分の意向が尊重される支援を受けるために何をするか、周りの人が支援しやすいように備えることなどを提起された。そして、備え方(決めておくこと)や施設の種類の選び方について詳しくわかりやすく話された。



最後に秋の全国大会(熱海)と第 4 回樋口恵子賞の募集案内があった。

名誉理事長の樋口恵子さんも元気に参加され「世代の移り変わりに高齢者がどのように知恵を残し新しい高齢社会を作っていくか、皆と顔を合わせ語り合うことから民主主義の再構築を」と元気に語られた。(植本真砂子)

竹中恵美子さんを悼んで

当会2代目代表である竹中恵美子さんが2025年7月1日に多臓器不全のため亡くなられた。

95歳。岐阜県出身。大阪市立大名誉教授。戦後になって女性に門戸を開いた大阪商科大（現大阪公立大）で学び、助手・講師を経て、1974年の教授、86年に国公立大で女性初の経済学部長に就任された。戦後の女性労働研究のパイ



オニアであり、関西の女性労働運動の理論的支柱として活躍された。1994年から2001年までの7年半当会の代表を務めていただいた。



ご逝去の報に接し、会員有志の方々に哀悼の言葉を寄せていただきました。(9月24日～10月13

日にドーンセンターで「竹中恵美子文庫展」（仮称）が開催される予定）

□ 理論と運動の交流のかなめ

竹中恵美子先生は、常に女性が置かれている現場に学び、改革の方向性と課題を提起して、労働運動や女性グループとの深い連携を形成し、そこからエネルギーな仲間が多数育ち、「竹中理論と運動の交流」が紡いだ共著も数多く出版されています。

1980年代の均等法制定前後、「保護か平等か」の二者択一を迫る政財界に対して、「いま、男女雇用平等法をめぐる問われているのは、女性の人権であり、同時に労働と生活の人間化の視点からの労働者保護である」と明快に反論し、男女雇用平等は、「結果の平等ではなく、機会の均等である」という路線に対しても、男性基準の「機会の平等論」は女性を排除する間接差別の手段であると批判し、「結果の平等」を実現するための戦略と課題を示されました。それを受けて、私たち大阪の女性運動は、女性の既得権廃止反対にとどめず、「女も男も人間らしい労働と生活を！」のスローガンを掲げました（後にILOが提唱したディーセントワークである）。さらに「機会の平等論の落とし穴」を説き、「結果の平等」につながる社会システムの変革をめざして実践できたと自認しています。（伍賀偕子）

□ 人生と学問の師である竹中恵美子先生を悼む

同じ日に、竹中先生と同じ大阪市立大学経済学部で教鞭をとられ、私の指導教授であった玉井金五先生もご逝去されました。両先生とも、研究はもとより、非常に丁寧に研究指導を行ってくださる素晴らしい先生方でした。玉井先生のご紹介で、龍谷大学大学院の竹中ゼミ生さんと出会いました。彼女はホームヘルプ労働研究、私は介護保険制度研究を行っているため研究の接点が多く、議論を重ねました。そんな私たちのお話を笑顔で親身に聞いてくださる竹中先生を今でも覚えています。今、私は非正規シングル女性の労働と生活の研究にも取り組んでいます。女性、そしてシングルであることから介護を担う可能性が高い一方、自らの厳しい生活をどのように維持するか、その支援課題は山積みです。竹中先生からの学びを基礎に、これからも社会政策研究を進めていきたいと思ひます。

心よりご冥福をお祈りいたします。

（森 詩恵）

□ 厳しさとやさしさと～竹中先生を偲ぶ～

32 歳の時、初めての企画講座に講師として来ていただいてから 40 年余り。竹中先生は、私のフェミニズムの師であり、社会運動の先輩であり、人として生きていく上でのめざすべき星でした。思い出は数限りなく、ここには書ききれませんが、一番印象に残っているのは、やはり、あのバックラッシュ時代のことでしょうか。

ドーンセンターが「財政改革」を理由に売却されそうになりました。私たちは「好きやねんドーンセンターの会」を作って抗議したのですが、反対パレードの先頭にたつてくださったのが、竹中先生でした。トレードマークのベレー帽をかぶりステッキをつきながら一緒にシュプレヒコールを叫んでくださった姿は忘れられません。私はその時、ドーンセンター1階で「ウィメンズブックストアゆう」という本屋を経営していたのですが、府議会で、ある議員が「ドーンの一階にフェミニズムの偏った本を販売する本屋がある」と発言したときには、真っ先に来てくださり、「堂々として！」と言ってくださいました。その後、色々な理由で本屋を畳まなくてはならなくなり、その報告の電話をした時には、最後、涙声になった私の話をじっと聴いてくださり、「よくがんばったね。これからもやることは沢山ある」とおっしゃいました。竹中先生の凛とした厳しさと優しさがなかったら、私は全く違う道を歩んでいただろうと思います。先生のことは、永遠に忘れません。

(森屋裕子)

□ 竹中先生 本当にありがとうございました

竹中先生のご子息から「母の体調が急変し、予断を許さぬ状況・・・」とのメールを受けて急遽上京してお目にかかったのが最後になりました。先生は何度も何度も「ありがとう」と言ってくださり、こちらこそその何十倍ものお礼を申し上げたい気持ちでいっぱいでした。その 11 日後に静かに眠るように最期を迎えられたとのこと。ご葬儀に参列してたくさんの「ありがとう」を申し上げて最期のお別れをいたしました。

竹中先生の講演を聴いて、目から鱗がボロボロ剥がれ落ちた経験をもつ会員さんは数多くいらっしゃるでしょう。私もその一人でした。津村明子さんがドーンセンターの館長に就任され、その後当会の代表となり、1994 年の「全国大会 in 大阪」を成功に導き、当会の礎を築いて下さった先生には感謝の言葉をいくつ並べても足るものではありません。先生は、「当会の代表を務めて一番印象に残っていることは会報の『巻頭言』を書き続けたこと」と仰っていました。当時、会報の編集を担当していた私は、我が家の FAX に先生からの『巻頭言』の原稿がカタカタカタと入ってきて一番に読む楽しみに浴し、毎号の巻頭言に感動したことが忘れられない思い出になりました。(巻頭言は 2004 年 10 月、会報 50 号記念『巻頭言にみる歩み』として発行されました)

心の支柱を失くして心許ない限りですが、先生に教えていただいた諸々は、しっかりと私の中に根付いています。改めて感謝を申し上げ、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

(田代眞朱子)

— 竹中恵美子さんを偲ぶ会 —

故人を偲び、思い出を分かち合うひとときを共に過ごしていただければ幸いです。

日時：10 月 11 日(土) 14 時～ 会場：ドーンセンター1F パフォーマンススペース

会費：2000 円(お花代) 問い合わせ先：wabasosaka2024@gmail.com

【会員シリーズ】こんなことしてま〜す！

～日替わり店主の店「わっく Café」では～

一般社団法人わっく金剛 わっく Café 担当理事 岡本聡子



高齢社会をよくする女性の会・大阪に昨年入会した岡本聡子です。富田林市での居場所づくりの取り組み、日替わり店主の店「わっく Café」をお伝えしたいと思います。

居場所づくりは、私のライフワークであるように思います。2003年には、親子がつどう「ほっとひろば」を開き、「NPO 法人ふらっとスペース金剛」で子どもと母親の居場所について展開してきました。15年を節目に、「ひろば」の利用者だった廣崎祥子さんに代表をお任せして、私はスクールソーシャルワーカーとして学校での仕事を始めました。先生と児童生徒しか存在しない組織の中に身をおくと、子どもたちにとっては、学校でも家庭でもない「第三の居場所」が必要なのではないか、と考えるようになりました。

それと並行して、富田林市の金剛団地の高齢化の課題に取り組み始めました。地区に常設の拠点をつくろう！というプロジェクトチームが立ち上がったのが2019年。市役所や社会福祉協議会のメンバーも加わり、学習会や見学会をしながら、誰もが集える場所はどんなところか？と話し合い、まずカフェを基本に、居場所を開くことにしました。毎日店を開けるためには、人の確保が難題。そこで、考えついたのが「日替わり店主の店」です。3000円を払って登録した店主をオーナーと位置付け、希望する日にカフェを開けてもらい、居場所を開設する主役になってもらう仕組みです。オーナー登録100人を目指し、声掛けを始めました。いつか自分の蕎麦屋を開きたい若者、退職後に喫茶店主になりたかったご夫婦、料理好きの友達と一緒に学祭のように楽しみたい、パンを

焼くのが得意だからみんなに食べてもらいたい……想像以上の反響でした。

2020年2月に有志8人で「一般社団法人わっく金剛」を設立し、いよいよ動き始めよう！という時に、コロナがやってきました。居場所づくりの助成金や補助金はことごとく不採用になりました。しかし、ここで諦められない。みんなで定額給付金を出し合った80万円をもとに、2021年2月、金剛銀座商店街の一角で、「わっく Café」がオープンしました。

2025年現在、登録しているオーナーは156人で、月2回開店する人から年に1度だけの店主まで、人それぞれです。登録はしたけれど、まだ挑戦していない人もいれば、開店して今は休止中、という店主もいます。「わっく Café」で自信がついて、自分の店を開いたオーナーさんは、今までに4人おられます。無理のないペースで、それぞれの自己実現の場として、地域の居場所として定着してきています。



毎月、第4土曜日 15:00～15:30 に、「わっく Café」でオーナー登録の説明会をおこなっています。
ご興味ある方はぜひお越しください。

研究会だより

✦介護問題研究会✦

3月21日に昨年度の活動を振り返り返った。4月18日に第1回研究会を行い、今年度の活動方針を下記のように確認した。

- ・介護保険制度の中身を知り、改悪阻止の運動をしていく
- ・私たちが知りたい身近な事、独居、認知症を含め成年後見制度について学ぶ

第2回研究会は、6月にシニアライフ・サポート倶楽部と合同で、成年後見制度の学習会を開催。赤松良太講師に制度説明をしていただき、具体的な事例について岡崎より情報提供を行った。制度や、介護を含め身近な事を、無理なく、楽しく、学び、語り合う場になるように努めたい。次回は、10月17日の予定です。是非ご参加ください。（岡崎和佳子）



✦シニアライフ・サポート倶楽部✦

本年は ①1/24(金) に11名の参加で、お茶を飲みながら、自由なおしゃべり会の雰囲気です活発な意見交換を行った。今後については「成年後見制度について勉強を進めては」との提案があった。

②3/12(水) は12名の参加で、「成年後見制度」について学習することが決まった。

難解な課題のため、YouTube・家庭裁判所作成の「ご存じですか？成年後見制度」

- ・日本公証人連合会作成の「任意後見制度」

の動画を観て事前学習を行い、さらに勉強会でも視聴して基礎知識を身につけることにした。

③6/20(金)には「成年後見制度」について講師を招いての勉強会を介護問題研究会と合同で開催した。

④7/9(水)に中之島美術館での展覧会とランチ会を企画したが、猛暑のため健康を考えて中止した。

次回については未定ですが、意見交換会で出された提案などから検討中です。（土井安美）

※お問い合わせ先： 事務局 E-mail: wabasosaka2024@gmail.com

【運営委員会だより】

主な内容について

- 【第10回運営委員会】 2025年1月11日(土)ドーンセンター
映画「オレンジ・ランプ」上映会確認 総務・広報の業務内容について共有 会報124号発行・発送
- 【第11回運営委員会】 2025年2月8日(土)ドーンセンター
国際女性年大阪連絡会との連携について 総会の記念講演 規約改正 会報送付先について
- 【第12回運営委員会】 2025年3月8日(土)ドーンセンター
2025年度総会（活動方針、活動計画書、会計報告検討）記念講演について 運営委員会組織
- 【第1回運営委員会】 2025年4月12日(土)ドーンセンター
2025年度総会議案書 記念講演について 総会案内発送（4/25）確認
- 【第2回運営委員会】 2025年5月10日(土)ドーンセンター
総会、記念講演の進行、役割分担確認 運営委員会の開催時間について 東京の会との関係について
- 【第3回運営委員会】 2025年6月14日(土)ドーンセンター
総会、記念講演の総括 今年度の事業計画（セミナー、会員交流会、メールマガジン発行等）
- 【第4回運営委員会】 2025年7月12日(土)ドーンセンター
会員交流会、第2回セミナー実施内容検討 会報125号発行 メールマガジン発行について

重要なお知らせ：昨年度から事務局が移転しました。新住所は表紙のタイトル欄をご覧ください

第2回セミナー



自分らしい豊かな暮らしのために

～知っておきたい成年後見制度の基礎知識～

「最近、よく聞く成年後見制度ってどのようなもの？」「家族がいるから必要ないのでは？」自分の老後、終末期は憂いなくおだやかに過ごしたい。また、家族としてもどのような状況になってもきちんと関わりたいなど、話題になっています。

そこで、要望が多い「成年後見制度」について初歩から、任意後見、法定後見（補助、補佐、後見）など幅広く学習したいと思います。ぜひご参加ください。

❖ 講師：**光山 幸さん**（司法書士・社会保険労務士）

公益社団法人 成年後見センター・リーガルサポート大阪支部副支部長

❖ と き：11月16日（日）14：00～16：00（13：30 受付）

❖ ところ：ドーンセンター 4階 セミナー室①

❖ 参加費：会員500円 会員外1000円

❖ 問い合わせ・申込先：高齢社会をよくする女性の会・大阪 事務局

wabasosaka2024@gmail.com（詳しくは、チラシ、ホームページをご覧ください）

【運営委員会日程】

9月	13日	（土）	運営委員会は原則として
10月	4日	（土）	毎月第2土曜日の
			午後13時～16時
11月	15日	（土）	ドーンセンターの
12月	13日	（土）	小会議室で開催

※会員はオブザーバー（議決権はない）としていつでも運営委員会に参加していただけます。

運営委員会って、どんな事をしてるの？

興味のある方は、ぜひ見学にいらして下さい。
お待ちしております。

◆新入会員さんです（敬称略）

浅井マサ子 伊藤威知郎 井上泰子

村上末子 村山昌子 堀家昌江

◆ご寄附いただきました

荒木美子 植本眞砂子 瀬能邦子

田代眞朱子 藤池博子 三宅治美

◆他に多くの方からもカンパをいただきました。ご協力ありがとうございます。

会費・賛助金ご協力のお願い

- ◆ 年会費(3,000円) 未納の方に振替郵便使用紙を同封いたしております。行き違いのありました時はご容赦下さい。
- ◆ 会員及び会員外からも活動賛助金1口1,000円以上をお受けしております。（会則7条）ご協力ください。
- ◆ 郵便振替口座 00980-1-17848
高齢社会をよくする女性の会・大阪
- ◆ 郵便貯金口座 ゆうちょ銀行 ○九九店
当座預金 17848
受取人名 コウレイシヤカイヨクスル
ジョセイノカイ オオサカ

WBGT（暑さ指数）は熱中症の危険度を示しています。31以上は「危険」、28～31は「厳重警戒」と評価されます。今年も連日の酷暑のため、「厳重警戒」や「危険」レベルになる日が続いています。屋外での活動はもちろん、室内でも熱中症のリスクは高まりますので、水分・塩分補給やエアコンの上手な活用を心がけ、体調の変化に注意しながら、安全に夏を乗り切りましょう!!

竹中先生のご逝去を悼み、心よりお悔やみを申し上げます。（中村晶子）

編集後記

本誌の記事を転載する場合は事務局へご連絡ください。